

## 『子は親の鏡』

子どもはいつも親の姿を見ている。ああしなさい、こうしなさいという親の躰の言葉よりも、親のありのままの姿のほうを、子どもはよく覚えています。親は、子どもにとって、人生で最初に出会う、最も影響力のある「手本」なのです。

子どもは、毎日の生活の中での親の姿や生き方から、よいことも悪いこともすべて吸収してしまいます。口で何かを教え込もうとしてもダメなのです。親がどんなふう喜怒哀楽を表すか、どんなふうにと人と接しているか。その親の姿が、手本として子どもに生涯影響力を持ち続けることになるのです。「はじめに」より

けなされて育つと、子どもは、人をけなすようになる

とげとげした家庭で育つと、子どもは、乱暴になる

不安な気持ちで育てると、子どもも不安になる

「かわいそうな子だ」と言って育てると、子どもは、みじめな気持ちになる

子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる

親が他人を羨んでばかりいると、子どもも人を羨むようになる

叱りつけてばかりいると、子どもは「自分は悪い子なんだ」と思うってしまう

励ましてあげれば、子どもは、自信を持つようになる

広い心で接すれば、キレる子にはならない

誉めてあげれば、子どもは、明るい子に育つ

愛してあげれば、子どもは、人を愛することを学ぶ

認めてあげれば、子どもは、自分が好きになる

見つめてあげれば、子どもは、頑張り屋になる

分かち合うことを教えれば、子どもは、思いやりを学ぶ

親が正直であれば、子どもは、正直であることの大切さを知る

子どもに公平であれば、子どもは、正義感のある子に育つ

やさしく、思いやりをもって育てれば、子どもは、やさしい子に育つ

守ってあげれば、子どもは、強い子に育つ

和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中はいいところだと思えるようになる

世界的ベストセラー『子どもが育つ魔法の言葉』（ドロシー・ロー・ノルト）より引用

ドロシー・ロー・ノルト：40年以上にわたり、家族関係についての授業や講演を行っていた人物であり、家庭教育の子育てコンサルタントの第一人者。日本では皇太子殿下(今上天皇)が朗読された詩の作者として注目を集めた。